

## キヤノン株式会社

### 2016年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

**Q1. レーザープリンターにおける第1四半期の現地通貨ベース売上が23%減に対して年間の見通しが10%減に留まる背景は？**

A1. 当四半期は本体の売上減に伴う消耗品の出荷調整もあり、大幅なマイナスとなった。第2四半期以降の回復前提については、昨年下半年に投入した新製品の市場への浸透が進み、販売増に繋がる点を織り込んでおり、また、新製品の市場稼働台数が増えてくるにつれ、消耗品も回復する見込みである。加えて、景気低迷の長期化が続く新興国地域も、今よりは良くなる見通しを立てている。

**Q2. レーザープリンターにおける、この第1四半期の消耗品の大きな落ち込みは出荷調整をした結果なのか？そうであるなら、翌四半期以降、消耗品のセルインは正常化が見込めるのか？**

A2. 当四半期の落ち込みは本体に伴う消耗品の調整が理由の一つである。

**Q3. 調査会社によれば2017年もレーザープリンターの本体台数の市場成長が1%に留まる点、また、消耗品におけるサードパーティ比率が増える可能性を考えると、市場稼働台数の回復をどう中長期的に捉えているのか？**

A3. レーザープリンターについては、カメラなどの既存事業とともに、中長期的には過去のような高い成長は見込んでいない一方で、その収益力や売上規模は無視できず、利益の源泉とみている。レーザープリンターの収益基盤を安定させるために、昨年プラットフォームを刷新した新製品を更に市場に浸透させ、市場稼働台数に占める比率を向上させていく。それに伴い、新しいタイプに変わった消耗品も、純正品比率の向上に寄与してくると見込んでいる。

**Q4. レーザープリンターの年間売上が現地通貨ベースで10%減となる一方、説明にあった調査会社の2016年の本体市場台数見通しは1%減となっているが、どちらが市場実態に近いのか？ともに実態とすれば、今年のシェアは落ちるのか？**

A4. 当社の2016年年間見通しは本体・消耗品ともに出荷調整が入っている関係で10%近く落ち込む見方をしており、市場の実需という観点では調査会社のデータに近い水準と捉えている。また、今年に入ってからシェア情報はまだないが、昨年の状況を見ると、年間でも、四半期別でもさほど大きなシェアの変動はない。

Q5. グループ子会社の産業機器について、構成比の開示が今回からあったが、その中でもキヤノントッキの有機 EL 蒸着装置の状況について補足願いたい。

A5. 現有生産能力を超えた発注を受けており、グループを挙げて可能な限り、顧客要望を満たせるよう取り組んでいる。また、グループ子会社の産業機器全体の売上が昨年比で約 8 割増となっている背景としては、キヤノントッキが牽引役となっている。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。